

学術情報センター ニュース

第48号目次

《トピックス》

[情報研究の中核的研究機関創設準備室の開設](#)

[大学等における情報発信に関するワークショップの開催報告](#)

[学術雑誌総合目録和文編新版の編集開始](#)

[平成11年度新CAT/ILLシステム説明会の開催](#)

[電子メールサービス（NACSIS-MAIL）および関連サービスの終了（平成12年10月末日予定）](#)

[電子図書館サービスの実施状況](#)

[NACSISオンラインジャーナルプロジェクト](#)

[高度分散情報資源活用のためのユービキタス情報システムに関する研究](#)

《参加館紹介》

[東京工業高等専門学校における学術情報センターシステムの利用](#)

[茨城工業高等専門学校の学術情報センターシステムの利用](#)

《NACSISサービス案内》

[ダイアルアップIP接続の開始](#)

[「総合目録データベースの品質管理」ビデオの刊行](#)

[目録システム利用マニュアル・入門編の刊行](#)

接続ニュース

[平成11年度学術情報センターサービス利用者説明会開催予定](#)

[失効した利用者番号での継続受付期限（6月25日）](#)

[JOIS利用料金の改定](#)

[「学術雑誌目次速報データベース」の進捗状況](#)

[NACSIS-ILL利用状況（平成10年度）](#)

[NACSIS-IRデータベース増加状況](#)

[NACSIS-CATデータベース構築状況](#)

《教育・研修》

[「平成11年度教育研修事業要綱」の発行](#)

[教育研修用教材の配布](#)

[研修情報の案内](#)

[平成11年度「情報処理軽井沢セミナー」の開催案内](#)

《講演会など》

[「日本情報の国際共有」（報告）](#)

《その他》

[人事異動](#)

[学術情報センター刊行物一覧（平成10年度）](#)

[海外からの来訪者一覧（98/12/25-99/3/23）](#)

[委員会報告](#)

情報研究の中核的研究機関創設準備室の開設

日本学術会議は、平成9年5月、「計算機科学研究の推進について」の勧告を行い、計算機科学（コンピュータサイエンス）の研究を推進するために、その中核となる研究所の設立を提案した。また、学術審議会は、平成10年1月、「情報学研究の推進方策について」の建議を行い、情報科学・計算機科学から生命科学系、人文社会系にわたる幅広い分野を対象として情報に関する学問の体系化を図ることが必要であるとの観点から、情報分野の学術研究を推進する中核的な研究機関を大学共同利用機関として設置することを提言した。

その後、文部省の「情報分野における中核的な学術研究機関の在り方に関する調査協力者会議」において、学術審議会が提言した中核的研究機関の在り方に関する検討が行われた。平成10年3月、同調査協力者会議の報告書が提出され、学術情報センターを母体とする改組・拡充により、大学共同利用機関として情報分野の中核的研究機関を設立するという方針が示された。

これを受けて、平成10年度、学術情報センターに置かれた「情報研究の中核的研究機関準備調査委員会」において中核的研究機関の基本的構想に関する審議が行われ、本年3月、同委員会は報告書を提出した。

さらに、本年度予算において、中核的研究機関の創設準備の実施に要する経費が計上された。また、本年4月、文部大臣裁定「情報研究の中核的研究機関の創設準備室等組織要項」が制定され、中核的研究機関の創設準備に関する事務を処理する「創設準備室」および中核的研究機関の組織運営その他の創設準備に関する重要事項を審議する「創設準備委員会」を当センターに設置することが定められた。

これにより、学識経験者から成る「情報研究の中核的研究機関創設準備委員会」が発足し、「情報研究の中核的研究機関準備調査委員会」の報告書を基に検討が行われる予定である。同委員会の検討結果を踏まえて、中核的研究機関の創設に向けた具体的準備が行われることとされている。

なお、委員会の報告などについては、当センターのホームページを参照いただきたい。（<http://www.nacsis.ac.jp>）



左から太田慎一文部省学術情報課長，工藤智規文部省学術国際局長，安達淳創設準備

室長，猪瀬博所長

(総務課)

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

大学等における情報発信に関するワークショップ の開催報告

学術情報センターでは、「大学等における学術情報発信の取り組み事例」および「大学等における学術情報発信の今後と学術情報センターとの連携協力の在り方」をテーマとして、平成11年3月11日に茗溪会館（文京区）でワークショップを開催した。

当センターの柿本事業部長から、ワークショップ開催の趣旨と大学等における情報発信の重要性について説明があり、引き続いて各機関における事例をテーマとして、次の講演が行われた。

1. 電子ジャーナルを中心とした学術情報の共同利用の試み
長岡技術科学大学附属図書館 豊田裕昭目録情報係長
2. 電子図書館の運用
京都大学附属図書館 山田周治システム管理掛長
3. コラボレーションセンター（機能集中型研究融合施設）の構築に向けて
滋賀医科大学附属図書館 白木俊男マルチメディア係長
4. 分散データベースの共同構築
島根大学附属図書館 加本純夫情報システム係長
5. 研究者総覧データベース
九州大学附属図書館 古賀幸成電子情報掛長
6. 学内資料電子化のためのアカウントビリティ
熊本大学附属図書館 甲斐重武電子情報係長
7. 国立民族学博物館における新しい情報提供システム
国立民族学博物館 平元健史情報システム課長

全国61大学から主に図書館関係者62名の参加があった。参加者は、身近で興味深い内容に熱心に耳を傾け、質疑応答や講演の合間にも、盛んに情報交換が行われた。

大学等を取り巻く学術研究に関する情報発信の今後の在り方と、それに情報関連担当者がどのように関わって行くべきかを考えるに当たって、今回のワークショップが大きな契機となることが期待される。



(システム管理課)

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

学術雑誌総合目録和文編新版の編集開始

平成11年度から，学術雑誌総合目録和文編2000年版の編集作業を開始する。作業期間は前回の欧文編1998年版と同じく2年間の予定で，平成13年3月の新版完成を目指したい。

前回の調査同様，各図書館の皆様のご協力をよろしくお願いしたい。

第1年次の今年度は，以下のようなスケジュールを予定している。

- (1) 予備調査 : 平成11年5月
- (2) 調査説明会 : 平成11年11月頃(東京・大阪)
- (3) 全国調査 : 平成11年11月～平成12年3月末

(調査の基準日は平成11年(1999年)11月1日を予定)

調査方法は，前回欧文編新版編集作業とほぼ同じである。従って，平成11年度の調査説明会は，主に新規参加館および新規担当者を対象とさせていただき，東京・大阪でそれぞれ1回開催する予定である。調査方法，説明会ともに，詳細が決定し次第，改めてご報告する。

新たに参加を希望される場合のお問い合わせは，以下の問合せ先までお願いしたい。

問合せ先：目録情報課雑誌目録情報係

TEL . 03-3942-6985 , 6986. FAX . 03-3944-7131.

(目録情報課)

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

平成11年度新CAT/ILLシステム説明会の開催

平成11年度の新CAT/ILLシステムに関する説明会を、下記のとおり開催する。

今回は、中国語資料を取り扱う図書館のシステム担当者および目録担当者向けに、平成12年1月に公開を予定している多言語対応目録システムに関する説明を中心に行う。

日時、場所、参加申し込み方法などの詳細については、別途ご案内したい。

1. 開催時期

平成11年7月

2. 予定会場

- ・北海道大学・京都大学
- ・東北大学・広島大学
- ・東京医科歯科大学・九州大学
- ・名古屋大学

3. 内容

- (1) 多言語対応目録システムの概要について
- (2) 中国語クライアントのデモンストレーション
- (3) 中国語資料の取扱いについて
- (4) 図書館システムの対応について

(目録情報課)

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

電子メールサービス（NACISIS-MAIL）および関連サービスの終了

（平成12年10月末日予定）

このたび、本センターでは、現在サービス中の「電子メール」、「電子掲示板」、「ネットワークニュース」について、平成12年10月末日をもって終了することとした。

その理由は、近年の急速なインターネットの発展をベースとした「インターネットメール」の世界的規模での普及に伴って、本センター「電子メール」および「関連サービス」の利用が著しく減少していることによる。

ここ数年、「インターネットメール」の普及は目覚しく、本センター利用者の所属機関である大学および研究所などにおいては、とりわけ顕著である。短期間に普及したのは、本センターの運用するSINETの拡充および大学などにおけるLANの構築、インターネット民間プロバイダーの出現などのネットワーク・インフラの整備・充実のほか、パソコンの普及と機能の高度化も大きな要因である。電子メールの場合でも、ラインモードからグラフィカルなユーザインターフェースへの進化、画像や音声データを併せて送受信できるマルチメディア化の実現、さらにメール交換は国内・国外を問わないなど、使い勝手や機能が著しく向上しており、今や「インターネットメール」は電子メールの事実上の世界的標準となりつつある。

しかし、「インターネットメール」の管理・運用は、これまで本センターが運用してきた「MHS（Message Handling System）方式」でのホストコンピュータによるセンターシステムと異なり、ネットワーク上の各機関や組織が個別に行うシステムで、一機関がサービスするものではない。

このような状況に鑑み、本センターとしては、冒頭に記したとおりの決定に至った次第である。このため、利用者の皆様には、今後、「インターネットメール」への移行をお願いすることになるが、現在所属されている機関・組織でのネットワーク環境や利用条件によりいくつかの移行方法が考えられる。本文末尾にその問合わせ先を示しているので、ご活用ください。

なお、インターネットは、日々刻々と進歩、発展しており、本センターの電子メールおよび関連サービス終了までの間には、「インターネットメール」へ移行のための新たな方法が出現することも大いに期待できる。これについては、本センターの知り速やかにお知らせし、利用者の皆様に過大な負担をお掛けすることのないよう、今後とも努めてゆく所存である。

以上のことについて、何卒、ご了承願いたい。

本件についてのお問い合わせなどは、下記のメール送り先名称または利用者番号により電子メールで受け付けている。

「学術情報センター/ユーザ/サービス」または「-UID Z00690」

また、既にインターネットメールが利用可能な場合は、：gyoum@simail.ne.jpでも受け付けている。

（システム管理課）

電子図書館サービスの実施状況

電子図書館サービスのソフトウェア提供状況

UNIX用電子図書館専用クライアント・ソフトウェア

製 品	オペレーティングシステム	提供ソフトウェア
SUN Microsystems社製 または同互換機	Solaris用(OSにSolaris 2.4,Solaris 2.5 を使用している場合)	elb-solaris 2.4.tar.Z(Ver3.2:平成11年4月6日公開版)
	Solaris用(OSにSolaris 2.5.1以上を使用している場合)	elb-solaris 2.5.1.tar.Z (Ver3.2:平成11年4月6日公開版)
	Solaris SOCKS用(OSがSolaris2.4, Solaris 2.5, Solaris 2.5.1でファイヤーウォールのProxyにSOCKSを使用している場合)	elb-solaris2.4-socks.tar.Z (Ver3.2:平成11年4月末日現在予定)
NEC社製EWS4800	EWS4800用 (OS:EWS-UX/V4.2MP)	elb-ews.tar.Z(Ver3.2:平成11年4月6日公開版)
	EWS4800 SOCKS用(OSがEWS-UX/V4.2MPでファイヤーウォールのProxyにSOCKSを使用している場合)	elb-ews-socks.tar.Z(Ver3.2:平成11年4月末日現在予定)
DOS/V パーソナルコンピュータ	DOS/V パーソナルコンピュータ用(OSにSolaris 2.5.1 for x86を使用している場合)	elb-solaris-x86.tar.Z(Ver3.2:平成11年4月6日公開版)
Hewlett Packard社製HP9000または同互換機	HP9000用(OSにHP-UXを使用している場合)	elb-hp.tar.Z(Ver3.2:平成11年4月6日公開版)

* 専用クライアント・ソフトウェアでは、電子図書館サービスに収録されている雑誌のほか、学術情報センター以外の他のZ39.50サイトの論文を検索する機能があります。

パーソナルコンピュータ用電子図書館プラグイン・ソフトウェア

製 品	ブラウザ	提供ソフトウェア
Microsoft Windows95, Windows98 またはMicrosoft WindowsNT4.0以上 備考：メモリ32Mbyte以上を推奨	Netscape Navigator /Communicator Version3.0以上 またはMicrosoft Internet Explorer Version3.0以上	Windows 対応プラグイン・ソフトウェア(平成11年4月6日公開版)

Apple社製のPower MacintoshまたはMacOS搭載機漢字Talk 7.XまたはMacOS 7.6以上	Netscape Navigator/Communicator Version3.0以上またはMicrosoft Internet Explorer Version3.0以上	Power Macintosh対応プラグイン・ソフトウェア(平成11年4月末日現在予定)
--	---	--

* WWWブラウザと学術情報センター電子図書館プラグイン・ソフトウェアとの組み合わせの使用となります。このプラグイン・ソフトウェアでは、前日までの使用料金が確認できる機能が追加されています。

* 各ソフトウェアの最新提供状況および入手については、次のURLをご覧ください。

URL:<http://www.nacsis.ac.jp/els/els-j.html>

(データベース課)

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

NACISISオンラインジャーナルプロジェクト

学術情報センター

教授 大山 敬三，助教授 神門 典子，助教授 佐藤 真一

1. プロジェクトの概要

学術情報センターでは、現在、「オンラインジャーナル編集・出版システム開発・構築事業」を推進している。本事業は1998年度の補正予算において、文部省と科学技術庁の共同事業として措置され、4年間程度のプロジェクトとして、学術情報センターと科学技術振興事業団（JST）が実際の開発と構築に当たっている。

本プロジェクトでは、学協会や大学などの学術研究機関における学術雑誌のオンラインジャーナル形態による出版を促進することを目的とし、編集プロセスを電子化して印刷原稿と同時に電子原稿を効率的に作成するためのシステムの開発と、電子原稿をオンラインで出版するためのシステムの開発および運用を行う。

当面は主に論文誌を対象に、多様な学協会の要求に柔軟に対応しつつ、従来と同等のコストで冊子体とオンラインジャーナルを並行して刊行可能とし、インターネットを利用した研究成果の迅速な公開と流通、国内における学術論文の流通ハブの実現、および、研究活動に必要な情報のワン・ストップ・ショッピングの実現を目標とする。

なお、本プロジェクトに関しては、以下のURLに最新の状況を公開しているので、興味のある方はご覧いただきたい。

- ・プロジェクトホーム <http://www.nacsis.ac.jp/olj/index.html>
- ・システム開発ホーム <http://www.rd.nacsis.ac.jp/olj/index-j.html>

2. システムの概要

本プロジェクトでは、電子形態の学術雑誌を制作するためのインハウスシステムを開発して各学協会に提供するとともに、その電子ジャーナルをインターネットを通じて購読者に提供するための共同利用のオンラインシステムを開発・運用して学協会の利用に供する。システムの全体構成を図1に示す。

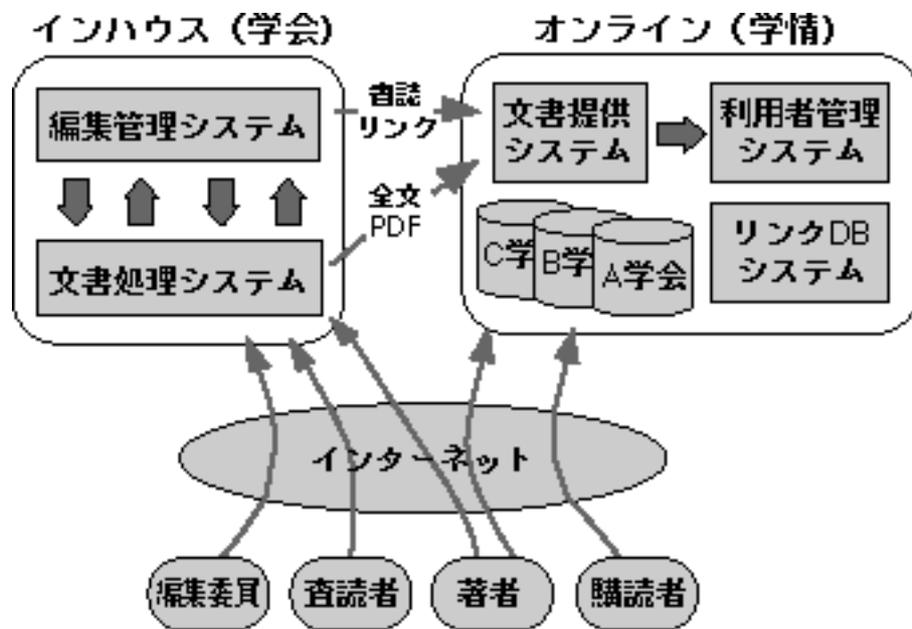


図1 システムの全体構成

インハウスシステムは、学協会事務局員、編集委員、査読者、著者（投稿者）などの利用者に対して、原稿や工程の管理と原稿の編集・処理に必要な機能を提供する。FTP、WWWなどによる電子投稿、投稿票の管理、オンライン査読、電子編集・レイアウトなどの機能を持ち、学協会ごとの多様な編集・査読体制などに対応できる構成となっている。文書処理ツールについても、MS-WORD、LaTeX、XMLエディタなど様々なソフトウェアを組み込んで利用することが可能である。本システムはできるだけ多くのプラットフォーム上で稼働することを目指しており、初期の開発においては、Windows系とSolaris系の2系統を対象としているが、今後はLinuxやMacintoshについても対応してゆく。

オンラインシステムは、コンテンツの管理と提供のための機能を持つ。購読者に対しては雑誌の通覧や全文検索などのほか、電子メールによる新着論文通知、ヒストリー、ブッ

クマーク、オンラインフォーラム、購読申込などの機能を提供する。学協会に対しては、個人や機関などの購読者資格ごとのアクセス制御や、公開期間などのスケジュール管理などの機能を提供する。なお、JSTは共同事業における分担として、引用文献のデジタルリンクを作成支援するためのシステムを開発しており、本システムからも利用できるようにする予定である。

3. システム運用の考え方

本プロジェクトでは開発したシステムをできるだけ有効に学協会に利用していただくため、以下のような考え方で提供する。学協会はこの範囲で自由にシステムの運用ができる。

(1) オンラインシステム、編集管理システム、および文書処理システムはモジュールとして独立して利用することが可能であり、各学協会は利用しやすい部分から段階的に導入することが可能である。

(2) 開発システムはパラメータ設定により、必要な機能だけを選択して利用できる。さらに、インハウスシステムの開発成果はソースコードの形で各学協会に提供するので、独自の機能の追加や変更が可能である。

(3) オンラインシステムは学術情報センターで運用し、学協会はオンライン出版事業のためにこのシステムを利用することができる。インハウスシステムは学協会事務局で運用するが、第三者機関に委託して運用することも可能である。

また、本システムの運用に当たっては、各学協会はオンラインジャーナル自体の内容、およびその作成や購読に関連する事項について権利と責任を持ち、雑誌公開の期間や範囲、購読者資格や料金などの出版に関する意志決定を自由に行うことができる。

今後は、インハウスシステムを協力学協会に試験的に導入して実用性を高め、1999年度後半には一般の学協会への提供を開始する予定である。それと並行し、オンラインシステムも、すでに電子化されている論文原稿をご提供いただき、試験運用を行った後に正式運用を開始する予定である。また、次年度以降も、表現形式に関する拡張、情報技術環境の変化への対応、印刷物中心からオンライン中心への出版形態の変化への対応など、継続して開発を行ってゆく予定である。今後の展開にご期待いただきたい。

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

高度分散情報資源活用のためのユービキタス情報システムに関する研究

学術情報センター教授

安達 淳

1. はじめに

当センターの研究開発部では、平成8年度から日本学術振興会（以下、学振と略す）の始めた新しい研究助成プログラム「未来開拓学術研究推進事業」の中の「マルチメディア高度情報通信システム」研究推進委員会のもとで、「高度分散情報資源活用のためのユービキタス情報システムに関する研究」というテーマで研究を進めている。

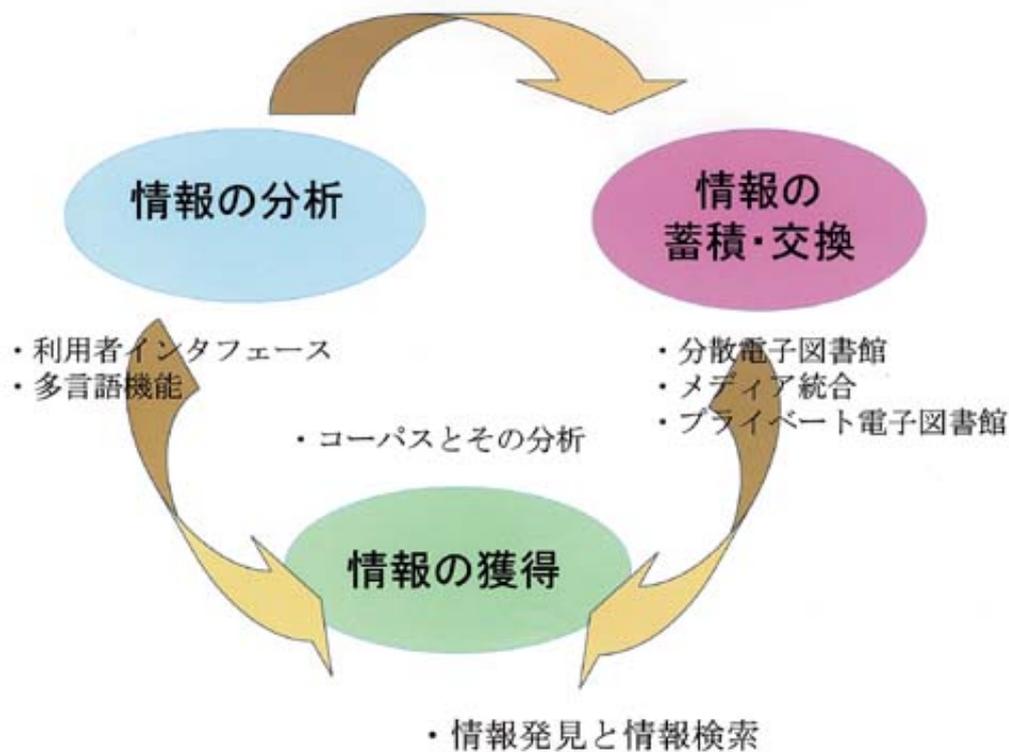
研究を開始して早3年が過ぎ、後残すところ2年となり、昨年度には中間評価を受け、これからは研究全体のまとめに入ろうとしているところである。

本稿では、この研究プロジェクトの現況と今後の方向について概説したい。

2. 研究の目指すもの

「ユービキタス（Ubiquitous，遍在）」という言葉は、ubiquitous computingという表現でもっともよく使われる。これは我々の生活で使ういろいろな道具や機械の中にコンピュータが組み込まれ、高度で便利な環境が実現されることを狙っている。我々の研究の「ユービキタス情報システム」で意味するのは「いつでも、どこでも」という意味合いで、ネットワークを介してどこからでも情報活用ができるような環境を念頭においている。

この情報活用のサイクルを図示すると、図1のようになる。情報の蓄積や交換を担うものとして、電子図書館がありここでメディア統合が適切に行われる必要がある。蓄積された情報は的確に分析され、それが新たな情報の獲得に活用されることになる。このように、情報をめぐる各種の処理技術とシステムをサイクルとしてとらえ、高度なレベルに持っていくような情報環境を研究するのが、本研究プロジェクトのねらいである。



インターネットは無秩序に情報が広がる空間である。この中で、情報発見、情報の組織化を行う手法が研究対象の一つになる。得られた知識を整理し再利用する手法も重要である。このような研究全体にいえるのは、いろいろな意味での「異種性」の克服ないし調停である。たとえば、デジタル文書情報に限ってもメディアの異種性が問題になるし、多言語も異種性の問題とみることができる。ユービキタス情報システムでは、いろいろな意味の異種性を扱うことになり、それを解消し適切な形で可視化することが重要な技法であると考えている。

3. これまでの研究成果

プロジェクト前半での研究成果の第一のものは、電子図書館での膨大な遡及情報のデジタル化を念頭においた文書画像によるデジタルコンテンツ作成システムの諸問題に技術的解を与えたことである。OCRを使い、文書画像の構造解析を行う技法を開発してきた。また、認識誤りを含むテキストの検索、分散して蓄積される情報オブジェクトへの位置透明な検索のメカニズムなどについて、実証的な研究を進めてきた。

一方、情報活用に際しての利用者インターフェースの向上のために、情報や概念構造の可視化、新しい検索言語などの研究が行われてきた。

テキストの検索と多言語情報処理も主要な研究対象であり、その成果の一つとして、情報検索システム評価用の大規模テストコレクションの構築も行われている。これは学術情報センターの作ってきた学会発表データベースをもとに整備したもので、日英の対訳も含んでいる。そのため言語横断的検索の研究にも利用できる。本年8月末には、このテストコレクションによる情報検索のコンペティション型ワークショップを開催する計画である。

4．研究のまとめかた

これまで，電子図書館，情報検索，利用者インターフェース，多言語情報処理，コーパス，メディア統合など，広いけれども相互に関連を持つ分野で17人あまりのスタッフが研究を進めてきた。今後は，高速・高品質の通信インフラの存在を前提として，その上で効果的に機能する分散情報システムアーキテクチャの中で，今までに提案された各種の技術を位置づけ統合システムとして提案していくことを予定している。

具体的なシステムイメージは次のようになる。デジタルコンテンツは，HTML，XMLやPDFなど異なる形式で自律的に運用されるサーバに蓄積される。この上では，様々な粒度の情報が利用される。例えば，電子文書全体，一枚の写真，テキストの断片などが情報獲得の対象となる。このような環境で，メディア統合や変換機能が柔軟に機能するとともに，位置透明なメタ情報活用機能が提供される必要がある。このためには今まで研究開発されてきた高度な情報検索技法を適用できる。

一方では，今後，情報の利用には著作権処理や料金の支払いなどのメカニズムを抜きに考えられなくなる。そこで，電子文書などの情報オブジェクトの利用に際しこのような処理が入り込めるようなアクセス環境を用意する必要がある。

当プロジェクトでは，後半ではこのような機能を具備した分散情報システムアーキテクチャを実現すべく，実証的な開発とシステム統合を進めていこうと考えている。

5．むすび

当プロジェクトの概要はhttp://www.rd.nacsis.ac.jp/projects/ubiqui/index_j.htmlでみることができる。また，8月末に予定しているテストコレクションのワークショップのほか，来年3月に他のプロジェクトとの共催で国際シンポジウムを計画している。

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

東京工業高等専門学校における学術情報センターシステムの利用

東京工業高等専門学校庶務課図書係長

布川 みつ子

1. はじめに

東京工業高等専門学校は昭和40年4月に発足した。現在は、機械工学科、電気工学科、電子工学科、情報工学科および物質工学科を設置し、5年間の一貫教育を行っている。

本校の図書館は、平成7年度に大規模改修工事を行い、面積・設備共に拡充した。以来、

学内の学習・教育・研究に有効に機能できる図書館をめざすとともに、さらには、土曜日の一般開放を開始し、公共的な役割も担える図書館をめざしている。

2. 学術情報センターシステムの利用

本校では、平成6年10月に学術情報センターへの接続申請が承認され、平成7年7月にNACSIS-IRを、平成8年2月にNACSIS-ILLの業務を開始した。NACSIS-CATについては、図書館システムとの互換性を図り（書誌データのダウンロード）、平成8年10月から実施した。さらに、平成9年10月からはNACSIS-ELSの利用を開始している。

学術情報センターへの接続申請が承認された当時は、ネットワーク上で行う業務の全体像を、明確に把握しきれないことへの不安が大きく、しかも、できるだけ早く運用を開始しなければならないという焦りが加わって、何とも複雑な思いが錯綜していたことを思い出す。幸いにも、学術情報センターおよびすでに稼働していた近隣の大学図書館の皆様方から、丁寧なご指導やご支援を賜わり、業務として踏み切ることができたのであった。

ネットワーク上での業務は、従来の業務のあり方を一変させ、同時にサービス提供の幅を想像以上に拡大させている。かつて年間100件に満たなかった文献依頼やレファレンスの件数が、その後数倍になり、しかも年々増加している。利用者に必要な情報を速やかに確実に提供できるようになったことは、職員にとって何にも増して大きな喜びである。そしてこれらの背景には、有効なデータベースと、それらを支える觸入くの機関の相互協力があることを常に思うのである。

3. 今後の課題

高等専門学校の図書館が学習・教育・研究のために有効に機能するには、図書館相互の情報網の整備、および他機関との連携協力による資源の有効活用が欠かせない状況になっている。しかしながら、全国の高等専門学校（国公私立：62高専）に対しては、「大学などの他機関に依存するだけでなく、高専でもできる限りの努力を行っていくべきだ」というご批判を度々頂戴する。具体的には、NACSIS-CATへの所蔵データ登録を推進すべきというご指摘である。残念ながら、本校においても、所蔵登録に

については新規購入分だけで、遡及入力については対応ができていない。

これらのご指摘や問題点などを踏まえ、本校では図書館システム（電子図書館構想を基本に）の見直しを開始した。従来以上に情報発信を可能にし、広範囲に役割を担える図書館を構築するために、どうあるべきかを議論しているところである。

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

茨城工業高等専門学校の学術情報センターシステムの利用

茨城工業高等専門学校学生課図書係長

小松澤 洋子

1. はじめに

高等専門学校は高度な専門技術を教授し、将来の優れた技術者、指導者を育成するための高等教育機関として中学校卒業後の5年間を通じて一貫した教育を行っている。

本校は昭和39年に発足し、機械・電気・電子制御・電子情報・物質工学の5学科に1000人余の学生が勉学している。図書館の蔵書数は約67千冊あり、自然科学や工学関係図書が半数を占めている。また開かれた高専として地域社会の生涯学習を支援する意味で年間を通じて図書館を一般公開している。

2. 学術情報センターシステムの利用

当館が、ISDN回線で学術情報センターと接続してNACSIS-CATに参加し、NACSIS-IRの利用を開始したのは1993年である。1996年にはUNIX系図書館システムを導入して校内LAN経由で学術情報センターに接続した。これによってNACSIS-ILLの利用を開始し、OPAC（オンライン利用者目録）の構築をCATに入力した図書の目録情報に切り替えた。それまでの蔵書検索は市販のパッケージソフトで目録データベースを作成していたため、データが増加するに従って作業に要する時間が拡大するなど問題があった。

このCATのシステムを利用することによりそのような不便な点が解消された。さらに「探している資料が容易に検索でき、利用できる」という図書館サービスの充実を図って1997年から遡及入力を開始した。CATに登録することで書誌作成業務の効率化を図り、そのデータをダウンロードすることにより質のよい書誌情報でOPACを構築し、資料管理の省力化と業務の合理化に役立てている。現在は蔵書の半数をデータベース化し、校内各所からインターネットで蔵書を検索することができるようになっている。引き続き遡及入力を行い、全所蔵図書をデータベース化して資料の活性化および相互利用の進展をはかる方針である。また、全国に向けて情報が発信できる学術雑誌目次速報データベースの作成に参加し、「研究彙報」などの本校刊行物を登録し、利用している。

本校における学術情報センターデータベースの利用環境は、校内向けWWWサーバにNACSIS-IR、ELS、SOKUHO、Webcatなどをリンクして利用の向上を図っている。

3. 今後の課題

現在、長岡技術科学大学提供の新外国雑誌目次データベースのサポートを受けて文献複写申込みは各端末からオンラインでできるが、申込みデータは直接ILL業務に活用できない。受け取った申込みメールをILLレコードに自動作成する機能を持つなどの新CAT/ILLシステムへの移行が課題である。

ダイヤルアップIP接続の開始

PPP (Point to Point Protocol) により，公衆電話回線からNACSISの各サービスを利用する「ダイヤルアップIP接続」を，平成11年3月15日(月)から開始しました。

これまで，IRなどへの公衆電話回線からの接続は，無手順方式によるラインモードでサポートしていましたが，ダイヤルアップ接続の開始により，新IR，電子図書館といったGUI (Graphical User Interface) 対応の新サービスが公衆電話回線から利用可能となります。

1 . 電話番号

東京 03-5977-0901

千葉 043-290-0211

2 . 通信 (端末設定) パラメータ

通信手順 PPP

通信速度 14.4kbps ~ 33.6kbps, ISDN

データ長 8ビット

パリティ なし

ストップビット 1ビット

IPアドレス サーバが割り当てたIPアドレス

ネームサーバ サーバが割り当てたネームサーバ

ユーザ名 guest

パスワード guest

3 . 通信ソフトの設定方法

商用プロバイダを利用する方法と同じです。すでに，インターネット接続環境を設定されている場合は，電話番号などを変更するだけで利用可能です。これらの情報はOSごとに順次詳細な手順を広報する予定です。

(1)Windows95/98の場合：

OSに添付されている「ダイヤルアップネットワーク」を利用してください。

(2)Macintoshの場合：

Mac OS 8.0以降の場合，OSに添付されている「MacTCP」または「TCP/IP」を利用してください。Mac OS 7.5の場合は，「MacTCP」のみ

が添付されています。

また、漢字Talk7.5.2の場合、これらのソフトウェアは、初期状態ではインストールされていませんので、漢字Talk7.5.3以降またはMacOS8.5へのバージョンアップが必要です。

4 . 利用制限

本ダイヤルアップIP接続は、NACSISのGUI対応サービスを利用していただく目的で開始いたしましたので、接続先を下記のものに限定しています。あらかじめご承知おきください。

- (1)新IRシステム（試験公開）
- (2)電子図書館サービス
- (3)研究者公募情報サービス*
- (4)学会ホームビレッジ*
- (5)Webcat
- (6)学術情報センターホームページ

注）*外部へリンクしているページは、見ることはできません。

（システム管理課）

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

「総合目録データベースの品質管理」ビデオの刊行

各図書館での総合目録データベースの品質管理に関する理解を深めていただくため、「総合目録データベースの品質管理」（VHS，16分）を平成11年3月に製作刊行しました。

このビデオでは、講習会を受講したばかりの目録担当者が、図書・雑誌の目録業務の中で直面した3つの問題を通して、先輩から次のような説明を受ける内容となっています。

なぜ品質管理が必要なのか

重複レコードや記述の不正確なレコードを作成しないための一般的な注意事項

図書書誌レコードの品質管理の流れ

雑誌書誌レコードの品質管理の流れ

学術情報センターでは、今回作成したビデオを目録システム講習会で使用するほか、目録所在情報サービスの各参加図書館に配布しており、今後の総合目録データベースの品質の向上につながるものと期待しています。



「総合目録データベースの品質管理」（パッケージ）

（目録情報課）

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

目録システム利用マニュアル．入門編の刊行

初めて目録システムを利用する図書館員のために、「目録システム利用マニュアル．入門編」（A4版カラー，65頁）を平成11年3月に刊行し，目録所在情報サービスの参加図書館に配布しました。

今回の入門編は，初心者向けのものであり，従来の目録システムの利用マニュアル「データベース編」，「検索編」，「登録編」の3編への導入としての役割を果たすものです。

内容は，目録システムの概要，目録システムを使った検索と登録の基本的な操作方法，その他目録システムの運用などの説明となっています。

また，平成9年度からサービスを開始した新CATシステムについても，具体的な画面例などをまじえながら説明しているので，これから新CATシステムを導入する図書館でも参考にしてください。

入手を希望する場合は，目録情報課に申し出てください
(FAX：03-3944-7131，E-mail

: catadm@op.nacsis.ac.jp)。また，学術情報センターホームページからは，PDF形式のファイルが入手できます。

URL: <http://www.cat.op.nacsis.ac.jp/INFO/cat-user.html>

(目録情報課)

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

接続ニュース

前号以降，新たに目録所在情報サービスの参加機関となった図書館は，以下のとおりです。

(平成11年4月12日現在)

No.	機 関 名	接続日	No.	機 関 名	接続日
642	宮城学院女子大学	1999.1.6	658	大手前女子短期大学	1999.3.24
643	名古屋女子大学	1999.1.13	659	国立極地研究所	1999.3.24
644	米子工業高等専門学校	1999.1.18	660	札幌市立高等専門学校	1999.3.24
645	湘北短期大学	1999.1.26	661	追手門学院大学	1999.3.24
646	福井工業高等専門学校	1999.1.27	662	桜花学園大学	1999.3.24
647	広島女学院大学	1999.1.27	663	愛知県立大学	1999.3.24
648	岐阜工業高等専門学校	1999.1.29	664	農林水産省国際農林水産業 研究センター	1999.3.24
649	札幌大谷短期大学	1999.2.9	665	関東学院大学	1999.3.24
650	豊田工業大学	1999.2.28	666	鳥取女子短期大学	1999.3.24
651	福岡国際大学・福岡女子短 期大学	1999.3.3	667	中村学園大学	1999.3.24
652	九州帝京短期大学	1999.3.11	668	三重短期大学	1999.3.24
653	政策研究大学院大学	1999.3.16	669	沖縄キリスト教短期大学	1999.3.24
654	仙台大学	1999.3.17	670	中京大学	1999.3.29
655	文部省統計数理研究所	1999.3.19	671	國学院大学	1999.4.1
656	活水女子大学	1999.3.24	672	東京工科大学	1999.4.5
657	大手前女子大学	1999.3.24	673	尚絅短期大学	1999.4.6

この結果，参加機関数は，国立大学99，公立大学46，私立大学315，共同利用機関14，短期大学73，高等専門学校44，その他82，合計673機関となりました。

(共同利用第一係)

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

平成11年度学術情報センターサービス利用者説明会開催予定

本センターの各サービスを利用していない機関または研究者などを対象として、下記の日程で利用説明会を開催いたします。この利用説明会では、各サービスの紹介、概要説明、申請方法の説明などを行っています。これらの説明会はシステムの操作方法などの講習会ではありませんのでご注意ください。

1. 目録所在情報サービス利用説明会

1.1 主な内容

- (1)目録所在情報サービスの概要
- (2)学術情報センターとの接続方法
- (3)利用申請方法
- (4)研修の申込み方法
- (5)質疑応答・個別相談

1.2 開催日時および申込締切

	開 催 日 時	募 集 開 始	申込締切
第3回	平成11年 6月28日(月) 13:30 ～ 16:30	平成11年 5月17日 (月)	平成11年 6月21日 (月)
第4回	平成11年 7月16日(金) 13:30 ～ 16:30	平成11年 6月 1日 (火)	平成11年 7月 9日 (金)

前号でお知らせした開催日を変更していますので、ご注意ください。

1.3 対象機関

目録所在情報サービスに未接続の下記の図書館職員、電子計算機担当者、ネットワーク担当者など (1)国公立大学、(2)短期大学、(3)高等専門学校、(4)文部省および文化庁の施設・機関など、(5)国公立試験研究機関、(6)学術研究法人および学会、(7)都道府県・政令指定都市立図書館など

1.4 申込み方法

先着17機関とさせていただきますので、(1)参加希望の説明会名(目録所在情報サービス利用説明会)、(2)参加日(第 回 月 日)、(3)機関名、(4)機関の所在地、(5)参加者の職名および氏名(2名以内)、(6)連絡先の電話番号を記入して共同利用第一係までFAX(03-3942-6797)でお申し込みください。FAXの書式例は教育研修事業要綱に、「利用説明会申込み用FAX送信票」が添付されていますのでご利用ください。

2 . 情報検索サービス・電子図書館サービス利用説明会

2 . 1 主な内容

(1)情報検索サービスの概要（実習）

(2)電子図書館サービスの概要

(3)サービスへの接続方法

(4)利用申請方法

(5)質疑応答・個別相談

2 . 2 開催日時および申込み締切

	開 催 日 時	募 集 開 始	申込締切
第2回	平成11年7月21日(水) 13:30 ~ 16:30	平成11年6月1日 (火)	平成11年7月14日 (水)

前号でお知らせした開催日を変更していますので、ご注意ください。

2 . 3 対象者

情報検索サービス・電子図書館サービスの利用を予定または検討している、下記の教員、図書館職員、研究者など (1)国公立大学、(2)短期大学、(3)高等専門学校、(4)文部省および文化庁の施設・機関など、(5)国公立試験研究機関、(6)学術研究法人および学会正会員など

2 . 4 申込み方法

先着34名とさせていただきますので、(1)参加希望の説明会名（情報検索サービス利用説明会）、(2)参加日（第 回 月 日）、(3)機関名、(4)機関の所在地、(5)参加者の職名および氏名、(6)連絡先の電話番号を記入して共同利用第一係までFAX（03-3942-6797）でお申込みください。FAXの書式例は教育研修事業要綱に、「利用説明会申込み用FAX送信票」が添付されていますのでご利用ください。

申込み・問い合わせ先：学術情報センター管理部共同利用課共同
利用第一係

電 話 03 - 3942 - 6933 F A X 03 - 3942
- 6797

（共同利用第一係）

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

失効した利用者番号での継続受付期限（6月25日）

学術情報センターシステム（情報検索サービス、電子メールサービスおよび国際電子メールサービス）の継続手続きを継続受付期間〔平成11年2月1日（月）～3月23日（火）〕に行わなかった場合は、仮継続の扱いになっております。本センターに直接申請した利用者で継続を希望する場合は、失効した利用者番号で情報検索サービス（または電子メールシステム）に接続すると「継続の有無」が表示されますので、継続するところたえることにより継続の申請を受付けています。（ただし、継続手続きが終了するまで約1週間利用できなくなります）手続きは6月25日（金）まで受け付けますので、継続を希望される利用者はお早めに手続きを行ってください。

情報検索サービスからの継続（**赤色**を入力）

（情報検索サービスに接続する。）

継続の手続きが行われていません。継続しますか
（YES, NO）？：**YES**

よろしいですか（YES, NO）？：**YES**

支払いコード「A」の継続申請を受け付けました。

承認までに約1週間かかります。

なお、大型計算機センター経由で申請した利用者はこの方法では継続できませんので、所属する大型計算機センターから第二センター申請コマンドにより新規で申請を行ってください。

（共同利用第一係）

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

JOIS利用料金の改定

科学技術振興事業団科学技術情報事業本部（JICST）からJOIS利用料金を平成11年4月1日から改定する旨の連絡がありましたので、改定後のJOIS料金をお知らせします。

なお、学術情報センター（NACSIS）を經由してJOISを利用している方は、今までどおり、基本料金（改正後は2,000円/月）は無料となります。

また、大学などの利用者については上段かっこ内の利用料金で利用できます。

JOIS利用料金，JOIS利用申込の詳細については，JICSTの各支部にお問い合わせください。

（１）改定後のJOIS利用料金

データベース名	ファイル接続料金		オンライン回答出力料金				オフライン手配料金	オンライン回答出力料金		ユーザSDI料金				
	Enjoy JOIS(注1) 1ファイルにつき	コマンド方式(注2)	T形式およびEnjoy JOISのタイトル表示	K,B形式	A,L形式およびEnjoy JOISの詳細情報表示(注3)	F,S,C形式		A,L形式(注3)	F形式	基本料金	回答出力形式			
	円/回	円/分	円/件	円/件	円/件	円/件		円/回	円/件	円/件	円/検	A形式円/件	W形式円/件	
JICST科学技術文献ファイル	(400) 600	(60) 100	25	(25) 30	(37) 120	(30) 110	700	(40) 120	(35) 115	650	(37) 120			
JICST速報ファイル			25	25	(35) 100	(30) 95		(40) 105	- -		(35) 100			
JICST科学技術医学文献ファイル(英文)			25	(25) 30	(37) 120	(30) 110		(40) 120	(35) 115		(37) 120			
MEDLINE医学文献ファイル			(40) 65	5	(5) 10	(30) 40		(25) 35	(35) 60		(30) 55	380	(30) 60	
MeSH医学用語ファイル			60	-	-	-		-	-		-			

JICST資料所蔵目録ファイル		60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
JICST・医中誌国内医学文献ファイル	600	100	25	30	135	130	700	140	135	930	135	-			
食品産業情報ファイル		100	25	30	110	105		115	110						
大阪市都市工学情報ファイル		100	25	30	120	115		125	120						
日刊工業記事ファイル		100	25	30	125	120		130	125	390	130	150			
日経産業新聞ファイル					W形式(注4)			150							
BJICST科学技術文献ファイル		(30) 60	(30) 35	(30) 40	(70) 150	(65) 140	(75) 150	(70) 145							
BJICST・医中誌国内医学文献ファイル		60	35	40	175	170	180	175							
JAPICDOC医薬文献抄録ファイル	600	130	25	30	195	190	200	195	960	200	-				
JICST化合物辞書名称ファイル	(-) -	(-) -	I形式	F.S.形式(注5)											
			15	(25) 50											

(注1) インターネット上でWebブラウザ (NetscapeなどのWWWブラウザ) の画面に従って検索します。オフラインはご利用できません。

(注2) コマンドを使い、文字によって検索を行います。

(注3) 新聞データベース以外のデータベースでは、任意の項目を表示した場合 (オプション形式)、この料金が適用になります。抄録が付与されていない場合はF,S,C形式の料金を適用します。EnjoyJOISの『詳細情報表示』について、新聞データベースにはこの料金は適用されません。新聞データベースの『詳細情報表示』料金は、W形式 (注4) をご覧ください。

(注4) 新聞データベースをEnjoyJOISで検索・出力される場合は、こちらの料金が『詳細情報表示』に適用されます。新聞データベースでは、任意の項目を表示した場合 (オプション形式)、この料金が適用になります。

(注5) 任意の項目を表示した場合(オプション形式), この料金が適用になります。

(注6) CPlusファイルでは, 抄録が付与されていない場合は155円減額いたします。

・原子力情報ファイル, 研修ファイルは, 無料

・出力形式 A: 全項目(抄録付), L: 物質索引語を除く全項目, F: 抄録, 物質索引語を除く全項目, S: 書誌的な項目(記事番号, 整理番号, タイトル, 著者名, 書誌事項), T: タイトルのみ, K: 一部項目(タイトル, 分類コード, キーワード), W: 新聞記事データベースの全文記事(但し図・表・写真を除く), C: 記事番号または整理番号

・JCHEMA出力形式(JICST化合物辞書名称ファイル) I: 整理番号, 日化辞番号, 物質タイプ, 被置換日化辞番号, 相互参照日化辞番号, F: 全項目, S: 慣用名を除く全項目

(2) JOIS with STNサービス系データベース

1. EnjoyJOIS利用料金(注1)

データベース名	ファイル接続料金	オンライン回答出力料金	
	Enjoy JOIS 1ファイルにつき	タイトル表示	詳細情報表示
	円/回	円/件	円/件
CPlusファイル	900	25	555
REG - NAMEファイル		25	713
INSPECファイル		25	329

2. コマンド方式利用料金(注2)

データベース名	ファイル接続料金	オンライン回答出力料金							
	コマンド方式	T形式	K形式	A,形式 (注6)	L形式	F形式	S形式	C形式	R形式
	円/分	円/件	円/件	円/件	円/件	円/件	円/回	円/件	円/件
CPlusファイル	403	33	33	296	-	141	107	21	-
REG - NAME ファイル	676	-	91	-	-	181	-	-	16
INSPECファイル	133	-	-	246	246	246	246	-	-

・CPlus出力形式 A: 全項目(抄録付), F: 抄録を除く全項目, S: 書誌的な項目(記事番号, 整理番号, タイトル, 著者名・発明者名, 書誌事項), C: 記事番号のみ, T: タイトルのみ, K: 一部項目(タイトル, 分類コード, キーワード, CAS登録番号)

・REG-NAME出力形式 F: 全項目, R: CAS登録番号, 優先・非優先・置換・廃止のCAS登録番号, K: CA索引名のみ

・INSPEC出力形式 A：全項目（抄録付），L：物質索引，天体物体，元素記号，物性データを除く全項目，F：天体物体，元素記号，物性データ，抄録を除く全項目，S：書誌的な項目（記事番号，整理番号，タイトル，著者名・発明者名，書誌事項）

（共同利用第二係）

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

「学術雑誌目次速報データベース」の進捗状況

前々号以降、「学術雑誌目次速報データベース」に対するデータ提供の申込みが26機関からあり、平成11年4月21日現在データ提供機関の参加状況は以下のとおりです。

	機関数	組織数	雑誌数
国立大学	85	192	1,173
公立大学	15	18	72
私立大学	141	150	845
短期大学	41	41	84
高等専門学校	24	24	29
その他	22	22	323
合計	328	447	2,526

最新の参加機関，収録対象雑誌の一覧はGopher, WWWでも見るすることができます。

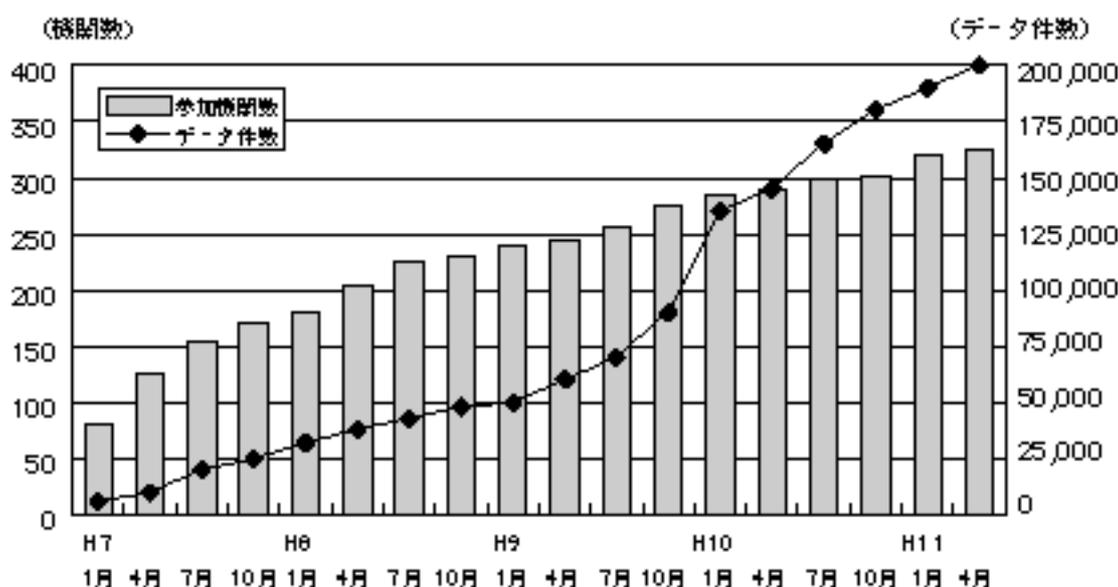
URLは以下のとおりです。

Gopher <gopher://gopher.nacsis.ac.jp/11/ir/sokuho>

WWW <http://www.nacsis.ac.jp/sokuho/>

データベースの収録件数は200,000件になりました。サービス開始当初からのデータ件数と参加機関の推移は以下のとおりです。

なお，このデータベースに関するお問い合わせは，データベース課文献データベース係（TEL.03-3942-6975～6,FAX. 03-3942-9398）までお願いします。



(データベース課)

NACISIS-ILL利用状況（平成10年度）

平成11年3月31日現在

1．利用機関

区 分	国立大学	公立大学	私立大学	その他	計
機 関 数	98	37	203	128	466
参加組織数	250	49	252	131	682

2．月別レコード件数

年 月	複 写	貸 借	計
1998年4月	61,322	3,196	64,518
5月	72,149	4,274	76,423
6月	84,179	5,497	89,676
7月	77,490	5,870	83,360
8月	63,142	4,184	67,326
9月	72,468	4,233	76,701
10月	86,125	5,990	92,115
11月	80,923	6,504	87,427
12月	74,654	6,171	80,825
1999年1月	72,285	4,861	77,146
2月	66,423	4,512	70,935
3月	70,626	4,597	75,223
合 計	881,786	59,889	941,675

3．図書館種別の流動

上段：複写件数，中段：貸借件数，下段：合計

受 付 依 頼	国立大学	公立大学	私立大学	その他	合 計
	580,357	3,566	18,734	22,407	625,064
国立大学	30,391	1,294	5,587	2,029	39,301
	610,748	4,860	24,321	24,436	664,365

公立大学	36,442	4,909	17,631	2,814	61,796
	1,213	301	1,295	195	3,004
	37,655	5,210	18,926	3,009	64,800
私立大学	41,669	7,421	86,440	7,249	142,779
	4,071	886	7,872	1,100	13,929
	45,740	8,307	94,312	8,349	156,708
その他	32,207	3,195	14,014	2,731	52,147
	2,094	147	1,044	370	3,655
	34,301	3,342	15,058	3,101	55,802
合 計	690,675	19,091	136,819	35,201	881,786
	37,769	2,628	15,798	3,694	59,889
	728,444	21,719	152,617	38,895	941,675

(目録情報課)

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

NACISIS-IRデータベース増加状況

平成11年5月14日現在

No.	データベース名称	収納件数	前回収納件数	備考
1	科学研究費補助金研究成果概要データベース	287,135	247,042	3/17追加更新
2	学位論文索引データベース	195,767	188,877	4/5追加更新
3	学会発表データベース(全分野)	416,998	380,968	4/12追加更新
4	学術論文データベース第二系(化学関連)	24,256	23,558	4/9追加更新
5	民間助成研究成果概要データベース	9,256	8,193	4/14追加更新
6	経済学文献索引データベース	177,663	172,986	3/16追加更新
7	学会予稿集電子ファイル	236,105	235,537	5/6追加更新
8	臨床症例データベース	12,278	9,799	2/23追加更新
9	学術雑誌目次速報データベース	202,399	190,318	毎日更新 5/14追加更新
10	雑誌記事索引データベース	2,064,144	1,987,482	隔週更新 最終更新日5/14
11	日本独文学会文献情報データベース	29,042	27,872	3/10追加更新
12	電気化学データベース	91,979	81,846	4/9追加更新
13	教科教育実践学関係資料(国語科)データベース	23,000	18,000	4/23追加更新
14	Life Sciences Collection PULS Marine Biology and Bio Engineering	2,072,158	2,016,392	月次更新 最終更新日5/13
15	MathSci	1,971,855	1,956,281	月次更新 最終更新日5/11
16	COMPENDEX PLUS	3,957,701	3,909,213	月次更新 最終更新日5/11
17	Harvard Business Review	3,033	3,022	隔月更新 3/30追加更新
18	ISTP & B	3,461,352	3,440,102	月次更新 最終更新日3/30
19	EMBASE	5,015,469	4,884,957	週次更新 最終更新日5/13

20	目録所在情報データベース（図書）：書誌 ：所蔵	4,138,179 38,047,780	4,022,541 36,503,242	週次更新 最終更新日4/21
21	科学技術関係欧文会議録データベース	55,646	55,015	5/6追加更新
22	JPMARC	2,075,864	2,027,329	月次更新 最終更新日5/12
23	LCMARC (Bookes)	4,628,936	4,590,712	週次更新 最終更新日4/9
24	大型コレクションディレクトリ	546	538	3/24追加更新
25	日本の医学会会議録データベース	34,168	32,915	4/22追加更新
26	国会図書館洋図書目録データベース	184,068	182,247	4/5追加更新
27	学協会集会スケジュール（日本工学会編）	11,441	10,712	5/10追加更新

* 現在サービス中のデータベースは全部で59種類あります。データベースの一覧は、URL（<http://www.nacsis.ac.jp/ir/dblist-j.html>）でご覧いただけます。

（システム管理課）

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

NACISIS-CATデータベース構築状況

平成11年5月14日現在

データベース名称		収納件数	備考（収録期間等）	
総合目録データベース	図書	書誌	4,150,035	
		書誌（遡及）	705,021	
		所蔵	39,174,263	
	雑誌	書誌	221,203	
		所蔵	3,300,573	
	著者名典拠		1,063,376	
	統一書名典拠		17,072	
	和雑誌変遷マップ		6,654	
	洋雑誌変遷マップ		18,036	
	参照ファイル	LC/MARC	洋図書書誌	5,914,430
洋雑誌書誌			807,960	1973年1月～1998年12月
非文字書誌			268,147	1973年1月～1993年12月
洋書著者名典拠			3,315,439	1977年1月～1999年4月
洋書統一書名典拠			266,054	1977年1月～1999年4月
JP/MARC		和図書書誌	2,122,014	1868年1月～1999年5月
		和雑誌書誌	100,582	1968年8月～1996年1月
		和書著者名典拠	325,315	
UK/MARC		洋図書書誌	1,792,566	1950年1月～1999年1月
DN/MARC		洋図書書誌	3,372,190	1945年4月～1998年10月
TRC/MARC		和図書書誌	739,816	1985年4月～1999年5月
GPO/MARC		洋図書書誌	444,121	1976年1月～1998年12月

（システム管理課）

「平成11年度教育研修事業要綱」の発行

学術情報センターで主催・共催している各研修・講習会に関する情報を掲載した「平成11年度教育研修事業要綱」を、平成11年4月上旬に全国の国公立大学・短期大学・高等専門学校、大学共同利用機関、文部省および文化庁の施設等機関、およびその他の関連機関に発送しました。

1．昨年度の研修・講習会の内容を以下の点で充実させました。

(1) 情報ネットワーク担当職員研修（内容を充実）

昨年までと内容を一新し、テーマ別にコース分けをすることで、より高度な内容としました。また、研修期間がそれぞれ4日間になりました。（教育研修事業要綱p.6～7参照）

(2) NACSIS-IRデータベース実務研修（新規に開設）

機関内でNACSIS-IRの利用説明会や講習会などを実施できる要員の養成を目的とし、各データベースの構造や応用的な検索方法などの研修を実施します。（教育研修事業要綱p.10参照）

(3) 目録システム（地域）講習会，ILLシステム（地域）講習会（新CAT/ILLに対応）

新目録所在情報サービス（新CAT/ILL）に対応した内容とし、個別のクライアントシステム（従来のXUIPを含む）に依存しない共通の講義内容で実施します。実習は、各講習会会場に導入されているクライアントシステムを使用します。（教育研修事業要綱p.11～19参照）

(4) NACSIS-IR（地域）講習会（新IRに対応）

平成12年1月にNACSIS-IRシステムの全面移行が予定されているため、現行IRに対応した講習会は学術情報センターにおいて年度の前半（5月～6月）に2回開催し、地域講習会は実施しません。

新IRに対応した講習会は、学術情報センターおよび地域講習会開催大学において、10月以降に数回開催を予定しています。詳細が決まり次第、本センターニュース、ホームページなどで広報します。（教育研修事業要綱p.20～21参照）

2．講習会開催日程の変更

「平成11年度教育研修事業要綱」でお知らせした講習会の日程を以下のように一部変更します。お申し込みの際は、ご注意ください。

講習会名称	共催機関	開催期間	締切り日	要綱記載頁
目録システム 地域講習会 【図書コー ス】	広島大学	変更前 11.9.8(水)～9.10(金)	11.7.23(金)	p.13
		変更後 11.9.1(水)～9.3(金)		

ILLシステム地域講習会	広島大学	変更前 11.9.6(月)～9.7(火) 変更後 11.8.30(月)～8.31(火)	11.7.23(金)	p.18
--------------	------	--	------------	------

3. その他

「総合データベース実務研修」の参加申込みの締切日は、7月16日(金)です。参加を希望される場合は、締切日までに推薦書を研修課企画係までお送りください。

研修に関する詳細は、平成11年度教育研修事業要綱(p.8～9)、ホームページおよびFAXサービスでもご案内しています。詳しくは、本号の「研修情報の案内」をご覧ください。

(研修課)

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

教育研修用教材の配布

目録所在情報サービス参加機関の内部研修や実務担当者の自学用教材としてご利用いただくため、平成11年3月、本センターで作成した以下の目録所在情報サービス関連の教材を参加（予定）機関に送付しました。

お送りしたビデオは、本センターが主催・共催する講習会などで使用することを目的に作成したもので、目録システム及びILLシステムの概要、基本的な考え方や操作の流れを解説しています。

また、ビデオと併せてお送りしたILLシステム講習会テキストを併用し、ILLシステム講習会と同等の内容を自館で習得していただくことが可能です。

なお、平成11年4月以降の新規参加機関にも、参加の際にこれらの資料をお送りします。

資料名称		資料形態
NACISIS-CAT		
1	概論（〔図書〕）	ビデオ
2	概論〔雑誌〕	ビデオ
3	目録情報の基準〔図書〕	ビデオ
4	目録情報の基準〔雑誌〕	ビデオ
5	検索総論〔図書〕	ビデオ
6	検索総論〔雑誌〕	ビデオ
NACISIS-ILL		
7	概論	ビデオ
8	基本操作・応用操作	ビデオ
9	LLシステム講習会テキスト	冊子

（研修課）

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

研修情報の案内

学術情報センターで主催・共催している各研修・講習会に関する詳細は、教育研修事業要綱の他、ホームページおよびFAXサービスでご案内しています。研修課のホームページでは、研修・講習会に関する情報や推薦書の記入例などの他、秋に開催予定の学術情報センターシンポジウムなど、学術情報センターの教育研修事業に関するご案内も随時掲載しています。

また、研修・講習会の受講申し込みに必要な推薦書は、教育研修事業要綱（p.23～p.46）をご利用頂くか、ホームページおよびFAXサービスでお取り寄せください。

URL <http://www.nacsis.ac.jp/hrd/welcome.html>

FAXサービス 03-3942-7865（BOX番号500：研修・講習会の総合目次）

（研修課）

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

平成11年度「情報処理軽井沢セミナー」の開催案内

標記セミナーを以下の要領で開催します。募集要綱を関係機関へ送付し、多数の申し込みをいただきました。（参加申し込みは既に締め切っています。）

今後、本センターニュースおよびホームページで実施報告をいたします。

開催期間	11.7.12(月)～11.7.16(金)
目的	高度化する学術情報システム的环境に対応できる情報処理の最新技術理論の修得を目的とする。
受講対象者	大学などに勤務する教職員で、学術情報処理関連の業務に従事している者。
会場	国際高等セミナーハウス（長野県軽井沢町）
カリキュラム	平成11年度は「LINUX活用」をテーマに実施する。

（研修課）

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

「日本情報の国際共有」（報告）

学術情報センターでは「日本情報の国際共有に関する研究」（Study on International Sharing of Japanese Scholarly Information）と題して文部省科学研究費補助金国際共同研究を平成10年度から井上 如副所長を研究代表者として開始している（課題番号10044018）。今年度の招へい研究者として3群，合計7名を招へいしている。その第三陣として，1999年3月4日から9日にかけて次の2名を招へいした。

Dr. Suzine HAR-Nicolescu（米国・ニューヨーク市立大学メドガー・エバース図書館長）

Dr. LEE Too Young（韓国・中央大学校文献情報学科教授・韓国図書館協会会長）

3月5日午前には学術情報センターにおいて日本における学術情報システムの展開について意見交換し，午後には恒例の講演会を開催した。

Dr. LEE Too Young「韓国における図書館・情報政策と最近の課題」

Dr. Suzine HAR-Nicolescu「多文化社会を目指して：変化のための媒体としての国際図書館連盟（IFLA）と図書館員」

また日本側として小池建夫氏（日立製作所デジタルメディアシステム事業センター

プリンティングシステム部主任技師）には「CJK統合漢字集合の開発過程」と題してISO/IEC10646の漢字部分について開発過程の諸相と課題を論じていただいた。

3月8日には同一のプログラムで京都大学附属図書館での講演を行った。年度末の多忙な時期に熱心な聴衆を得たことを記して，聴衆各位に謝意を表す。またきわめて短期間かつ密度の高い日程のなかでDr. LEE Too Youngは韓国図書館協会会長として，現在進行中の図書館界の日韓交流促進のため日本図書館協会に表敬され，日本図書館協会も手厚く対応された。これらの講演記録は平成10年度報告として1999年3月に発行され，全国の大学図書館に配布の予定である。

また3月22日から25日にかけて，この科研と深い関係にある米国ラトガース大学アリキサンダー図書館のMrs. Myoung Chung WILSONも別途の資金で招へいし，大学図書館が介在する学術情報流通の諸問題について検討し，当調査研究に貢献したことを付記して，招へいに尽力された方々，短期間の準備にもかかわらず招へいに応じられたウィルソン氏およびラトガース大学に謝す。末尾ながら京都大学附属図書館のご協力に感謝申し上げる。



小池建夫氏



Dr. Suzin HAR-Nicolescu



Dr. LEE Too Young



Mrs. Myoung Chung Wilson

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

人事異動

発令年月日	氏名	新官職名など	旧官職名
〔停年退職〕			
11. 3. 31	井上 如		企画調整官（副所長）
〔辞職〕			
11. 3. 31	佐久間邦彦		事業部ネットワーク課ネットワーク管理係
〔採用〕			
11. 4. 1	江口 浩二	研究開発部学術情報研究系情報図書館学研究部門助手	
	細部 博史	研究開発部学術情報研究系情報管理学研究部門助手	
	日高宗一郎	研究開発部システム研究系システム工学研究部門助手	
	児玉 和也	研究開発部システム研究系超高速画像情報処理研究部門助手	
	加藤 弘之	研究開発部開発研究系開発統括研究部門助手	
〔転入〕			
11. 4. 1	吉田 秀保	管理部会計課長	日本学術振興会総務部会計課次長
	京藤 貫	事業部目録情報課長	広島大学附属図書館情報サービス課長
	松井 一澄	情報研究の中核的研究機関創設準備室主幹	文部省学術国際局学術情報課大学図書館係長
	村田 正一	管理部会計課課長補佐	国立オリンピック記念青少年総合センター会計課課長補佐
	金丸 敏眞	管理部会計課用度係長	国立極地研究所管理部会計課用度第一係長
	坂本 朝治	事業部ネットワーク課国際事業係長	国立歴史民俗博物館管理部資料課情報処理係長
	山下 智久	事業部目録情報課雑誌目録情報係長	東京大学附属図書館総務課システム管理掛
	佐藤 泰弘	管理部会計課用度係	埼玉大学理学部会計係
	鈴木 陽子	管理部共同利用課共同利用第一係	東北大学附属図書館医学分館運用掛
	早川 英岐	事業部データベース課電子図書館係	東京工業大学工学部等人事掛
	羽鳥 光俊	研究開発部システム研究系統合メディア処理システム研究部門教授	東京大学大学院工学系研究科教授
	福田 光宏	研究開発部研究動向調査研究系人文・社会系研究部門助教授	文部省大臣官房文教施設部指導課企画調整官

〔所内異動〕

11.4.1	田原 裕治	管理部総務課国際交流係長	管理部会計課総務係主任
	千葉 栄夫	管理部会計課経理係長	管理部会計課用度係長
	武川利代巳	事業部システム管理課システム管理 係長	事業部ネットワーク課国際事業係長
	鵜澤 和往	事業部目録情報課相互協力係長	事業部目録情報課雑誌目録情報係長
	相原 雪乃	教育研修部研修課指導第二係長	事業部目録情報課相互協力係長
	岡本 幸次	情報研究の中核的研究機関創設準備 室係長	管理部総務課企画調査係長
	石井 保志	管理部総務課庶務係	管理部共同利用課共同利用第一係
	石塚 泰史	管理部会計課総務係	管理部会計課用度係
	金子 修	管理部会計課管財係	教育研修部研修課企画係
	宮永 勢次	事業部システム管理課システム管理 係	事業部システム管理課システム業務係
	松浦千穂子	事業部ネットワーク課ネットワーク 管理係	事業部データベース課電子図書館係
	奥村 直美	教育研修部研修課企画係	教育研修部研修課指導第一係
	安達 淳	情報研究の中核的研究機関創設準備 室教授	情報研究の中核的研究機関準備調査室教授
	大山 敬三	情報研究の中核的研究機関創設準備 室教授	研究開発部開発研究系開発統括研究部門教授

〔併 任〕

11.4.1 安達 淳 情報研究の中核的研究機関創設準備室長

〔客員部門〕

11.4.1 五神 真 研究開発部開発研究系フルテキスト
コンテンツ開発研究部門教授 研究開発部開発研究系フルテキスト
コンテンツ開発研究部門助教授

〔職務命令〕

11.4.1 竹内 隆志 管理部総務課国際交流系の職務担当免
宮永 勢次 千葉分館勤務免
田原 裕治 情報研究の中核的研究機関創設準備室勤務命

武川利代巳	情報研究の中核的研究機関創設準備室勤務命
石井 保志	情報研究の中核的研究機関創設準備室勤務命
蓑毛堅一郎	情報研究の中核的研究機関創設準備室勤務命
神門 典子	情報研究の中核的研究機関創設準備室勤務命
影浦 峡	情報研究の中核的研究機関創設準備室勤務命
高須 淳宏	情報研究の中核的研究機関創設準備室勤務命
佐藤 真一	情報研究の中核的研究機関創設準備室勤務命
相澤 彰子	情報研究の中核的研究機関創設準備室勤務命
野末俊比古	情報研究の中核的研究機関創設準備室勤務命
後藤田洋伸	情報研究の中核的研究機関創設準備室勤務命
片山 紀生	情報研究の中核的研究機関創設準備室勤務命
杉本 雅則	情報研究の中核的研究機関創設準備室勤務命
藤野 貴之	情報研究の中核的研究機関創設準備室勤務命

〔 転 出 〕

11 . 4 . 1	小山 晴己	文部省学術国際局研究機関課専門員	管理部会計課長
	牧村 正史	横浜国立大学附属図書館情報管理課長	事業部目録情報課長
	助川 一正	東京大学医学部附属病院管理課課長補佐	管理部会計課課長補佐
	若宮 広和	国立科学博物館附属自然教育園総務係長	管理部総務課国際交流係長
	伊藤 利明	メディア教育開発センター事業部情報資料室放送資料第一係長	管理部会計課経理係長
	早野 裕士	東京大学情報基盤センター分散システムセキュリティ支援掛長	事業部システム管理課システム管理係長
	茂出木理子	東京大学情報基盤センター学術情報リテラシー掛長	教育研修部研修課指導第二係長
	豊田 正美	埼玉大学経済学部会計係予算主任	管理部会計課管財係
	野沢 靖典	筑波大学病院部医事課医療情報処理係	事業部データベース課文献データベース係

佐藤 初美

東北大学附属図書館北青葉山分館整理・運用掛 事業部目録情報課図書目録情報係

柿沼 澄男

文部省大臣官房調査統計企画課課長 研究開発部学術情報研究系データベース研究部門助教授補佐

(人事係)

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

学術情報センター刊行物一覧（平成10年度）

〔平成10年3月～平成11年4月〕

誌名および発行頻度	発行日
センターの総括的出版物	
学術情報センター要覧 和文編	年一回発刊
学術情報センター要覧 英文編	年一回発刊
学術情報センター年報 平成10年度	99.1.14
学術情報センターニュース 最新刊47号	季刊 '99.3.12
NACSIS newsletter 最新刊No.19	年2回発刊 '99.3
研究報告	
学術情報センター紀要 第11号	'99.3.30
アジア・スーパーハイウェイ上におけるアジア情報 1997年度報告	'98.3.27
我が国における学術研究活動の状況 平成7年度学術研究活動に関する調査結果	'98.10
COE支援プログラム 学術情報の高度化および次世代情報ネットワークの構築に関する研究	'98.12
ドイツ連邦共和国における図書館制度の概略	'99.1.6
WAINS 5: Proceedings of the 5th International Workshop on Academic Information Networks and Systems.	'99.3.30
電子図書館の国際的拡大と学術情報の利用形態の国際的動向に関する調査研究	'99.3
日本情報の国際共有に関する研究 平成10年度報告	'99.3
中国との学術情報交流プロジェクト 1998年度報告	'99.3.29
利用の手引き・マニュアルなど	
Introduction to NACSIS -IR (English)	'98.4
目録システム利用マニュアル 入門編	'99.3.29
ILL システム操作マニュアル 第4版	'99.3.31
はじめての新CAT/ILL	'98.10
平成11年度 教育研修事業要綱	'99.4
講習会テキストなど	
目録システム講習会	テキスト 図書館編 '99.4
	検索課題集 図書館編 '99.4
	登録課題集 図書館編 '99.4
目録システム講習会	テキスト 雑誌編 '99.4
	検索課題編 雑誌編 '99.4
	登録課題集 雑誌編 '99.4
ILL システム講習会	テキスト '99.4
オンライン・システムニュースレター 最新刊No.66	'99.3
報告書など	
学術情報データベース実態調査報告書（平成10年度）	'99.3
学術情報センターシンポジウム（平成10年度）レジュメ	'98.11
ビデオテープ	

総合目録データベースの品質管理	'99.3
NACSIS-CAT検索総論 [図書]	'98.3
NACSIS-CAT検索総論 [雑誌]	'98.3
学術情報のナビゲーターNACSIS-IR	'99.3
ネットワーク管理の基礎技術 - 通信プロトコルとコンピュータネットワーク -	'98.3
学術情報センター編集・監修 (市販)	
学術雑誌総合目録 欧文編 1998年版	'99.3.29
研究者・研究課題総覧 (1996年版) CD-ROM版	'98.6.19
全文検索： 技術と応用	'98.11.20

(情報・資料係)

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

海外からの来訪者一覧（98/12/25 - 99/3/23）

12. 25	Ms. Ryuko HASUNUMA	国際交流基金ケルン日本文化会館司書
1. 5	Prof. Sheila Intner	シモンズカレッジ大学院図書館情報研究科教授
	Mr. Intner	シティ大学教授
	Prof. Nick Moore	
	Mrs. Moore	
	Mr. Wolfgang Zick	ハノーバー図書館情報大学図書館副館長
1. 25	Mr. Miao Hua Jian	北京日本学研究センター図書資料館副主任
	Dr. Shi Jian Jun	北京日本学研究センター言語研究室講師
2. 1	Ms. Setsuko KUWABARA	ベルリン日独センタードキュメンテーション・図書館部長
	Ms. Izumi K. Tytler	オックスフォード大学ボドリアン日本図書館長
2. 9	Mr. Sung-Hyuk Kim	韓国先端学術情報センター長
2. 22	Mr. Dong-Meau Chang	科学技術資料中心研究助手
	Ms. Shu-Fen Hung	情報工学研究所システム技術者
	Ms. Shu-MinLee	科学技術資料中心計算機技術者
	Mr. Jun-hsin Chiu	情報工学研究所技術者
3. 16	Dr. Peter Dunn	ケンブリッジ大学図書館機械化室I.T.オフィサー
	Mr.Noboru KOYAMA	ケンブリッジ大学図書館司書
3. 18	Ms. Ryoko TOYAMA	ニュージャージー州立ラトガース大学ニューブランズウィック図書館長
3. 23	Ms. Myoung Chun Wilson	ニュージャージー州立ラトガース大学アレグザンダー図書館情報サービス・蔵書構築部長

（国際交流係）

[目次へ戻る](#)

[次へ](#)

委員会報告

学術情報センターネットワーク委員会

平成10年度学術情報センターネットワーク委員会が平成10年11月17日（火）に開催され、次の議事について審議などを行った。

議事

平成10年度学術情報ネットワークの整備状況について

学術情報ネットワーク整備要項の一部改正について

SINETと郵政省ギガビットネットワークとの接続について

学術研究情報ネットワークに関する計画調整会議

第10回学術研究情報ネットワークに関する計画調整会議が平成11年1月21日（木）に開催され、以下の議事について審議などを行った。

議事

平成10年度学術情報ネットワークの整備状況について（報告）

学術情報ネットワーク整備要項の一部改正について（報告）

SINETと郵政省ギガビットネットワークとの接続について

（ネットワーク課）

[目次へ戻る](#)